

# 集合

高松市美術館

# の

コレクション展

# イメージ



田塚恭治  
「土石84-5」1984年



草間彌生  
「無題(金色の椅子のオブジェ)」1966年

# “ASSEMBLAGE”

from the collection of Takamatsu City Museum of Art

2005

3/4  
金

3/21  
月・祝

- 休館日  
月曜日(ただし3月21日[月・祝]は開館)
- 開館時間=火~金曜日(9:30-19:00)  
土・日曜日・祝日(9:30-17:00)  
入室はいずれも閉館30分前まで
- 入場料  
一般600円(480円)  
高・大生400円(320円)  
小・中生200円(160円)  
\*( )内は前売りおよび団体20名様以上の料金  
前売りは美術館1階受付にて開催前日まで販売  
\*65歳以上の高齢者(長寿手帳等が必要)  
身体障害者手帳・療育手帳または  
精神障害者保健福祉手帳所持者は入場無料  
\*会期中の土曜日は小・中・高生入場無料
- 主催=高松市美術館

Takamatsu City Museum of Art  
高松市美術館

〒760-0027 香川県高松市紺屋町10-4  
Tel.087-823-1711

ホームページ <http://www.city.takamatsu.kagawa.jp/kyouiku/bunkabu/bijyutu/index.html>



岡崎和郎「ダッチャー(ゴムの着衣についての考察より)」1965年  
撮影=高橋章



伊藤隆康「負の楕円」1967年 撮影=高山宏



依田順子「Untitled #L-11(Susquehanna River)」1994年 撮影=Peter Jacobs



談囀「192 Gradation Rainbow」1985年



宮島達男「Time in Blue No.16」1996年  
協力:白石コンテンポラリーアート

美術作品の素材といえば、絵画なら絵具や鉛筆、彫刻なら石や金属などが連想されます。しかし20世紀以降の美術では、しばしばそれら以外の素材が複合的に用いられてきました。その初期の例はピカソ、ブラックらキュビストが行った「コラージュ」で、キャンパスの上に新聞の切抜きや布など雑多なものが貼り付けられました。また、このコラージュの立体版ともいべきものがタダやシュルレアリスムの作家が行った「アッサンプラージュ」で、平面、立体を問わず様々なものが寄せ集められ、オブジェ作品が生み出されました。コラージュもアッサンプラージュも、今日では一般的な美術の手法として、多くの作家によって取り入れられており、独創的な作品が数多く作り出されています。

今回の展示では、高松市美術館コレクションの中から、コラージュやアッサンプラージュなどの手法を用いて物体やイメージ(像)を「集合」させた、42作家による作品85点をご紹介します。展示はテーマごとに設けられた4つの章から構成されます。第1章では「アッサンプラージュとコラージュ」と題し、岡崎和郎、田窪恭治らによるアッサンプラージュ作品と、桂ゆき、依田順子らによるコラージュ作品をご紹介します。第2章では「光の集合」と題し、河口龍夫、宮島達男らによる光を用いたオブジェ作品をご紹介します。第3章では「点と線と面」と題し、幾嶋、李禹煥らによる点、線、面を集積させた作品をご紹介します。第4章では「反復する記号とイメージ」と題し、草間彌生、柳幸典、村上隆らによる記号やイメージを反復させた作品をご紹介します。

「集合」をキーワードに集められた1960年代から90年代までの様々なタイプの作品たち。それぞれの作者が「集合」を通して何を伝えようとしてきたのかをご覧ください。

## 集合のイメージ — 高松市美術館コレクション展

# “ASSEMBLAGE” from the collection of Takamatsu City Museum of Art



李禹煥「線より #760160」1976年



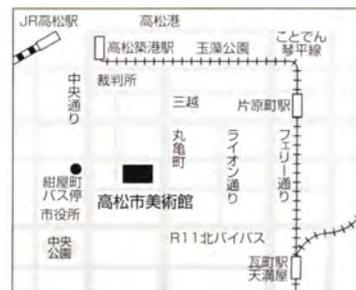
村上隆「そして、そしてそしてそして(赤・ピンク・アァァル・黄・青)」1999年  
©Takashi Murakami/Kaikai Kiki Co., Ltd. All Rights Reserved.

### ギャラリートーク(観覧券が必要)

- 当館学芸員によるギャラリートーク  
3月5日(土)午後2時より2階展示室にて
- 美術館ボランティアcivi(シヴィ)によるギャラリートーク  
会期中の日曜日・祝日 午前11時～/午後2時～  
1日2回 2階展示室にて

### 常設展のお知らせ

- 第5期常設展 3月27日(日)まで  
展示室1:ピカソからホックニーまで—20世紀美術の流れ  
展示室2: 蒔繪の系譜  
\*特別展のチケットでご覧いただけます。



### 交通のご案内

JR 四国—JR高松駅下車、南へ徒歩15分  
ことでん—瓦町駅、片原町駅下車、徒歩10分  
バス路線—(ショッピング・レインボー循環(入)) 紺屋町バス停下車、徒歩3分  
駐車場—美術館地下に公営駐車場(有料、乗用車144台収容)